



／ 教えて！外務省 ／

知っておきたい 国際協力 Vol.26

国際社会から見たJICA海外協力隊の重要性や相手国の反応をはじめ、
外務省だからこそ語ることができる協力隊についてご紹介します。

Q トップレベルの会談でJICA海外協力隊が
話題に上がることはあるの？

A 首脳会談などの重要な場で、協力隊への
感謝の言葉をいただくことがあります。

JICA海外協力隊（以下、協力隊）の隊員は、首都などの大都市だけでなく地方にも派遣され、現地で暮らしながら住民と同じ目線で話し合い、ともに汗をかきながら地域の発展に取り組んでいます。そのなかで相互理解が深まり、自然と友好関係が築かれていきます。

この「顔が見える協力」は相手国から高く評価されており、首脳会談のような重要な場で、日本の協力隊に対する感謝の気持ちが伝えられることもあります。また、二国間や多国間の会合で発表される共同声明などの文書でも、協力隊の貢献に言及されることがあります。例として、ラオスと日本は今年1月、

外交関係樹立70周年の機会に、両国関係を包括的・戦略的パートナーシップに格上げすることに関する共同声明を発表しました。そのなかで、「両首脳は協力隊のラオスへの派遣60周年を祝福し、協力隊がラオス社会の発展と人的交流に大きな役割を果たしてきたことを再確認した」とも記されています。

さらに、隊員に直接感謝

2024年12月にラオスで行われた民族衣装を着た隊員によるソーンサイ・シーバンドン首相（前列左から8番目）表敬での集合写真。首相表敬は毎年実施されている。



©JICA

の意を伝えるために首相が協力隊員との面会の場を設ける国もあり、協力隊が相手国に大切にされ、二国間関係においても重要な存在である証しだといえるでしょう。これは隊員たちの大きな励みにもなり、活動への意欲や使命感をさらに高めていると思います。

Q 協力隊の経験者にはどんなことが期待されているの？

A 国際的な知見や貴重な経験を活かし、
国内外での 社会課題解決や国際貢献 をすることです。

協力隊の三つの目的*の一つに「ボランティア経験の社会還元」が掲げられています。任地で外国語や、国際的な感覚、課題に対する向き合い方を身に付けた隊員は、実際に帰国後、その知見を活かして国内外のさまざまな分野の課題解決に貢献しています。

外国人との共生に取り組む自治体などにとっても、協力隊の経験者は貴重な存在です。現に、自治体の国際交流促進に力を発揮している帰国隊員もいます。たとえば、人口約

1万人の宮城県丸森町には、ザンビア派遣隊員を含む4人の協力隊経験者がこれまで移住しており、「ザンビアフェスティバル」の開催など、丸森町の新たな地域活性化につながる活動が生まれています。

帰国隊員が貢献しているのは、国内だけでなく、海外で起業して社会課題に取り組む方や、JICAが国連ボランティアの派遣にかかる費用を負担する「JOCV枠 UNV制度」や、外務省が若手邦人を国際機関に派遣

し、勤務経験を積む機会を提供する「JPO（Junior Professional Officer）派遣制度」を活用し、国連をはじめとする国際機関で活躍している元隊員も多くいます。

このように、協力隊経験者は多分野での活躍が期待される存在として、日本社会への貢献はもちろん、国際社会のなかでの日本の存在感を高めることにも寄与しています。帰国後の活躍が、協力隊の意義をさらに深めているといえるでしょう。

今月の
テーマ

JICA海外協力隊

答 え て く れ た 人

外務省国際協力局事業管理室
経済協力専門員

子田 利理伊さん
Koda Ririi

2018年10月から20年3月までJICA海外協力隊として中米コスタリカに派遣された後、22年からはJICA地球環境部にて国内協力員として勤務。24年より現職に従事し、JICA海外協力隊に関わる業務を担当。



Q 外務省はどのように協力隊と関わっているの？

A 隊員が安心して活動できる 制度づくりや現地での
広報を通じた 活動支援 など幅広く関わっています。

隊員が安心して活動するためには、相手国との間で派遣の受け入れについて、事前にしっかりとした制度を構築しておくことが欠かせません。外務省は、そのための交渉を相手国政府と行い、派遣の前提となる国際約束を締結しています。この国際約束は、相手国における隊員の安全かつ円滑な活動を確保するうえで重要な基盤となります。

このほか現地日本大使館は、相手国の国民に協力隊の活動を紹介したり、隊員が日本文化を紹介する行事を企画する際にそれをサポートしたりしています。これらを通じて、日

本や協力隊に親しみをもってもらえるようにしていくことも大切だと考えています。

任期を終えて帰国した長期派遣隊員には、その貢献への感謝と今後の活躍への期待を込めて外務大臣からの感謝状を授与しています。年に数回、外務大臣または外務省幹部から帰国隊員一人ひとりに感謝状を直接渡し、懇談する機会も設けています。また、JICAでは、帰国隊員に対して、前述した「JOCV枠 UNV 制度」のほか、起業を希望する方へのセミナーなども実施していますが、外務省でも後押しをしていきたいと考えています。

それまでの海外経験がゼロでも、協力隊に参加すれば、さまざまな訓練とサポートを得て、日本を代表して、任国の発展に携わる活動ができます。私と同様、協力隊がきっかけで外務省に入った職員も多数います。国際協力や外交に興味がある方、新しい環境にチャレンジしたい方は、ぜひ一歩を踏み出してみてください。



「JICA海外協力隊」の
情報について

情報の詳細については、外務省のウェブサイト（左の二次元コード）をご確認ください。



左・上：子田さん（右端）がコスタリカの隊員だった当時、現地イベントで日本文化を紹介。大使館から法被を借り、折り紙や習字、日本の遊びなどを来場者に体験してもらった。

帰国隊員への外務大臣感謝状授与式で、上川陽子大臣（2024年7月当時）が祝辞を送る様子。



©外務省